

1. 公開授業の研究協議

研究協議の Y チャート作成グループワークの中で出た意見として

- ・教材研究が大事
- ・対話しやすい環境を作ることが大事
- ・ICT の活用方法を考える
- ・対話のタイミングを大事にする
- ・発問の工夫が大事
- ・質問に対する答え方が難しい
- ・雰囲気作りができていた

という意見が出た。1 番の基本として、教材研究が欠かせないということは、「主体的・対話的で深い学び」となった今でも変わらないことである。問題のチョイスで生徒たちの手の動きや頭の動きが大きく変わってくることは、今回の授業でもよくわかった。教材研究をする上でも、対象クラスに合わせた選択が重要となることも改めて感じた。また、発問の工夫が大事であるという意見も頂いた。基本的には、的を絞らないオープンクエスションをしており、それを受けていかにこちらの意図した答えを導き出すかが大事であると考えている。質問に対する答え方が難しいという意見は出たが、そういった質問は生徒が考える機会となると考えているので続けていきたい。最後に、対話が活発になるかどうかは、やはり雰囲気作りであると感じる。発問に対する返しが良くなくても、対話がきちんとできる雰囲気・環境であると感じている。そして、いかに深い学びにもっていけるかは、やはり私たちの発問によると感じている。深い学びの実現は、これらすべての実践の先にあると考える。

2. 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う上で

今回の私の授業のように、「主体的・対話的」という言葉に囚われて、手段の工夫に力が入ってしまうことが多いのではないかと考える。どんな手段で主体的に取り組ませるか、どんな手段で対話させるか、そこに力を入れすぎるとその授業における教師側の達成感や手応えは大きいはずである。なぜならその授業は盛り上がるからである。しかし、目的は「深い学び」の達成であり、生徒たちがどのような力を身につけられたかである。目的が何かを常に念頭に置き、授業を組み立てることが大事であると考えている。

また、手段を考えるためにはゴールイメージを明確にもつことが重要である。この授業を通して、さらにはこの単元を通してどのような力や考え方を身につけさせたいかを明確にすれば、それを実現するために最適な手段というものが見えてくると考える。

3. 授業実践を振り返って

今回の公開授業を通して、実施するまでに考えることも多かったが、実施後に考えることも多かった。上記したとおり、手段にこだわり過ぎて反省だらけの内容であったが、逆にたくさんのご意見を先生方から頂くことができ、たくさんのことを考えるきっかけとなった。自分の授業をよく振り返る大きなきっかけとなり、日々授業改善を心がけるようにしている。最終的なゴールがどういった授業なのかは明確見えてはいないが、明確なゴールイメージを持ち、手段を工夫しながら、少しでも完成形に近づけるよう頑張っていきたい。